

第 124 回 2021 年 2 月投資家アンケート調査結果

アンケート調査にご協力下さりました皆様

2月に実施致しましたアンケート調査にご回答下さり誠にありがとうございます。このたび調査結果をまとめましたのでお送りさせていただきます。ご笑覧賜れましたら幸いです。今後もアンケート調査にご協力いただけるようお願い申し上げます。

2021年 4月 5日 青山学院大学 経営学部 教授 亀坂安紀子
明海大学 経済学部 教授 新井啓

調査の概要

今回の調査では、2月1日以降317通の調査票を発送した。送付先の内訳は、銀行・生損保72通、証券会社91通、投資信託・投資顧問113通、その他41通である。2月25日までに返送された20通にもとづいて本アンケートの結果を紹介する。回答率は6.3%、平均回答日は2月9日であった。過去4回の回収状況は以下の通りである。

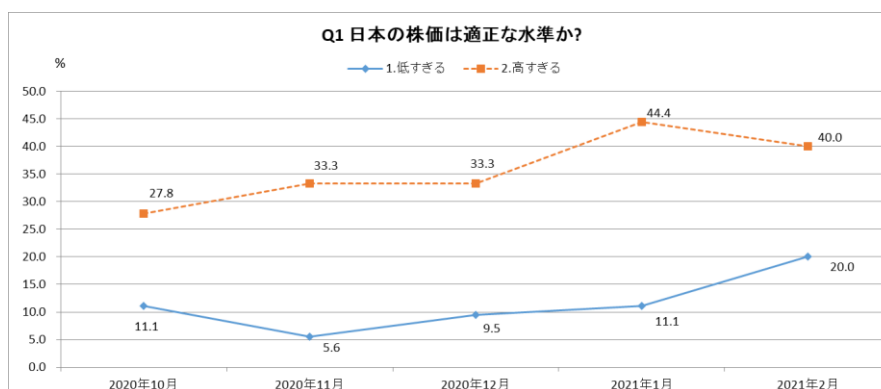
発送開始日	発送数	回答数	回答率
2020/10/5	329	18	5.5%
2020/11/17	326	18	5.5%
2020/12/7	325	21	6.5%
2021/1/12	320	18	5.6%
2021/2/1	317	20	6.3%

定期調査の質問の主要な結果

1. 日本の株価を企業のファンダメンタルズと比較してどう評価するか

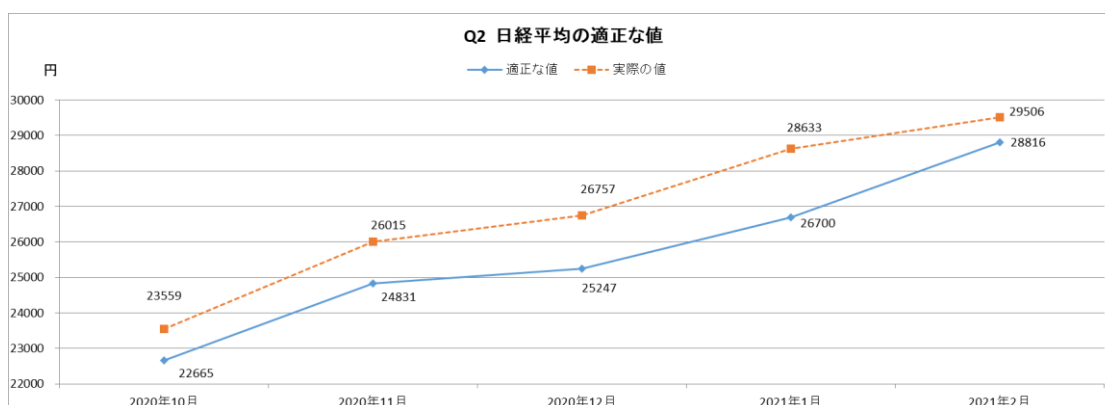
問1. 「日本の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



今回の調査でも、依然として「2. 高すぎる」の回答割合が高いが、「1. 低すぎる」の回答割合も2020年11月調査から高まる傾向にある。

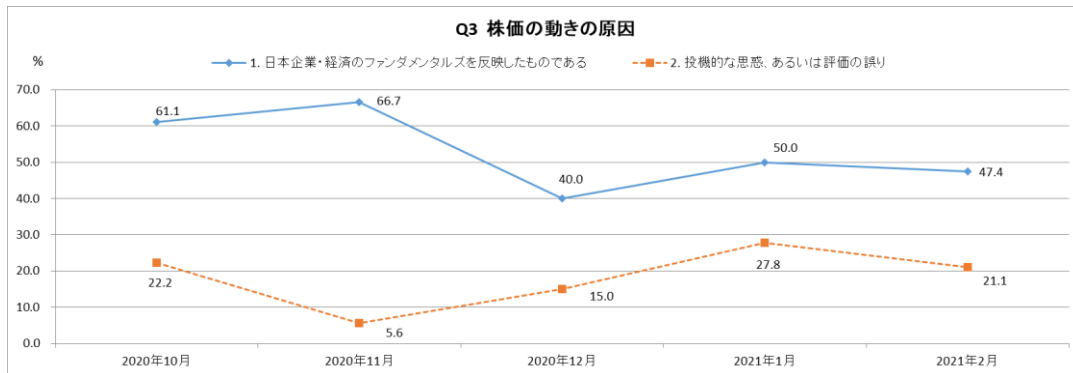
問2. 「日本の株価（日経平均）は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



平均回答日における「実際の値」、「適正な値」はともに上昇し、その乖離幅は縮小していた。

問3. 「過去6ヶ月間の日本の株価の趨勢的変化の要因はなんだとお思いですか。」

1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである
2. 投機的な思惑、あるいは評価の誤り
3. その他
4. わからない

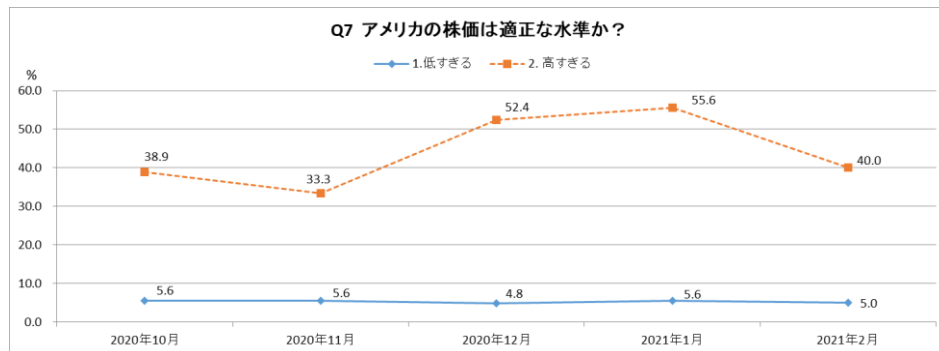


依然として「1. 日本企業・経済のファンダメンタルズを反映したものである」の回答割合が高いが、今回の調査においては「2.投機的な思惑、あるいは評価の誤り」の回答割合も20%を超えたままであった。

2. ファンダメンタルズと比較してアメリカの株価をどう評価するか

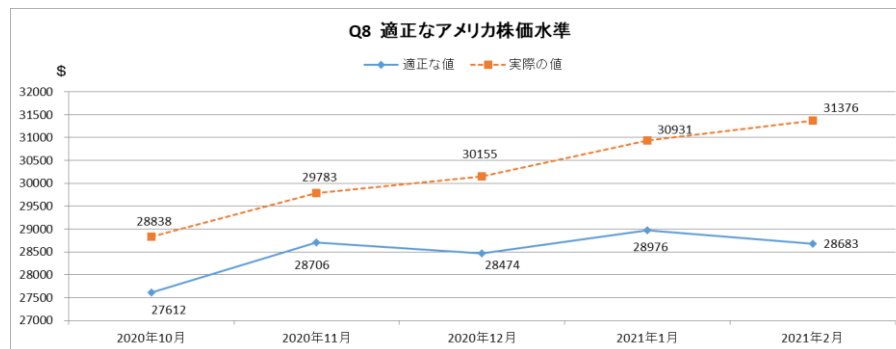
問7. 「アメリカの株価は企業の実力(ファンダメンタルズ)あるいは合理的な投資の価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



依然として「2. 高すぎる」の回答割合は高く、「3. ほぼ正しく評価されている」の回答割合も 50.0%であった。

問8. 「アメリカの株価 (NYダウ) は企業の実力(ファンダメンタルズ)から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



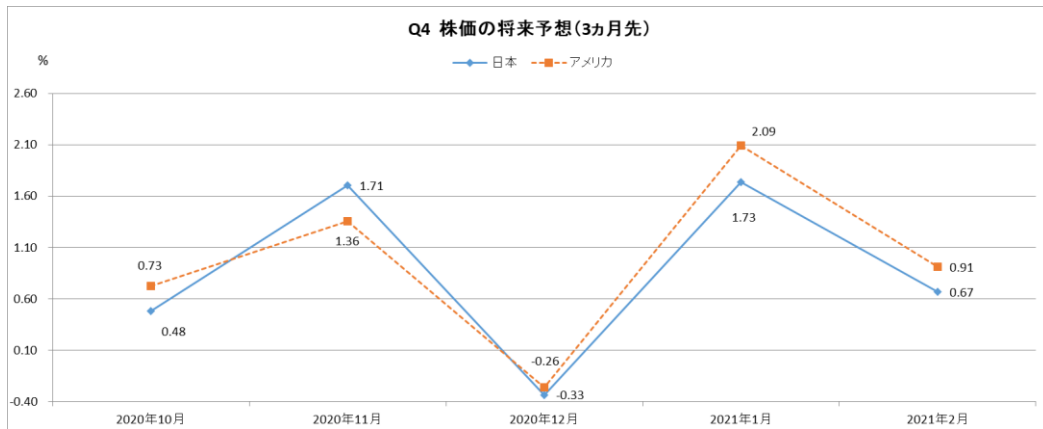
平均回答日における「実際の値」は、前回調査からさらに上昇し 31,000 ドルを超えていた。その一方で、「適正な値」は下方修正されていた。

3. 株価の将来予想

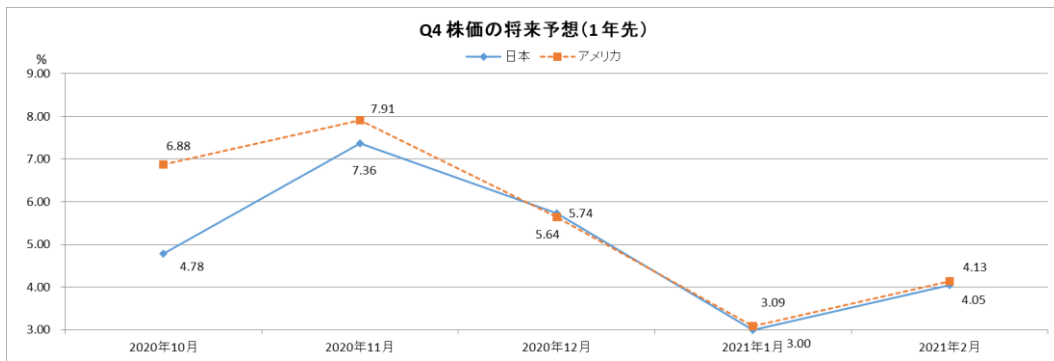
問4. 「日米の株価が、将来どう変化すると予想されているか、現在を基準として%でお答えください。(上昇を予想される場合には+ (プラス) を、下降を予想される場合は- (マイナス) を、数値の前におつけください。)」

株価の先行き予想についての今回の調査結果は、以下の表のとおりである。(単位、%)

	日経平均株価 予想1ヶ月先	日経平均株価 予想3ヶ月先	日経平均株価 予想6ヶ月先	日経平均株価 予想1年先	日経平均株価 予想10年先
平均	0.50	0.67	2.39	4.05	50.33
標準偏差	2.41	5.61	7.70	10.30	38.58
最小値	-5	-10	-10	-20	0
最大値	5	10	20	30	150
回答数	18	18	18	19	15
	NYダウ 予想1ヶ月先	NYダウ 予想3ヶ月先	NYダウ 予想6ヶ月先	NYダウ 予想1年先	NYダウ 予想10年先
平均	0.34	0.91	3.71	4.13	58.40
標準偏差	2.31	5.76	7.16	16.39	42.93
最小値	-5	-15	-10	-50	5
最大値	5	10	20	30	150
回答数	18	18	18	19	15



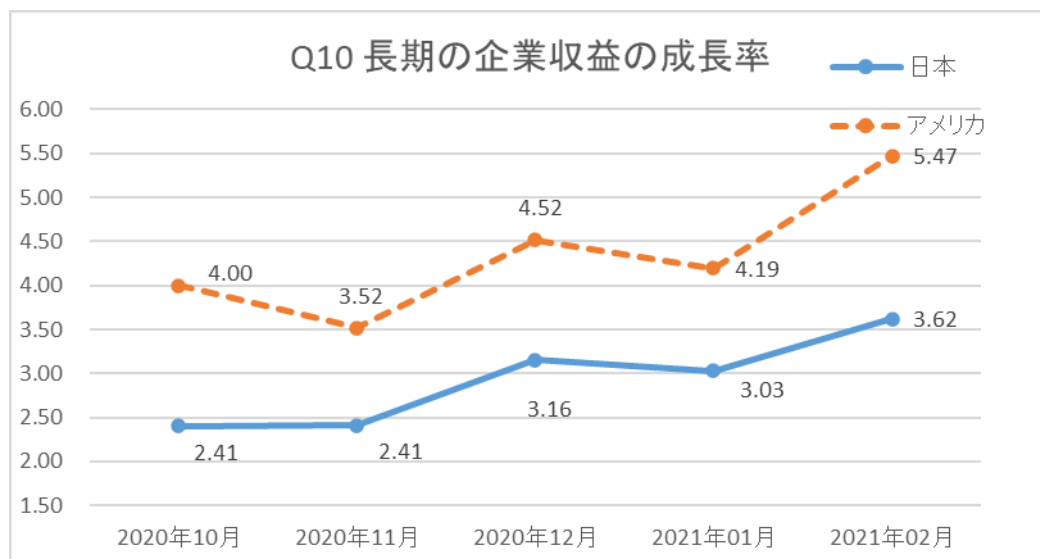
特に株価の 3 ヶ月先の予想変化率の平均値に注目すると、日経平均株価についても NY ダウについても前回調査から下方修正されていた。



1 年後の予想変化率の平均値は、日経平均株価、NY ダウともに前回調査から若干上昇していた。

4. 長期の企業収益予想

問10. 「これから10年間の日本およびアメリカの企業収益の成長率は平均してどのくらいだとお考えですか。名目ではなく、インフレ分をひいた実質成長率でお答えください。」

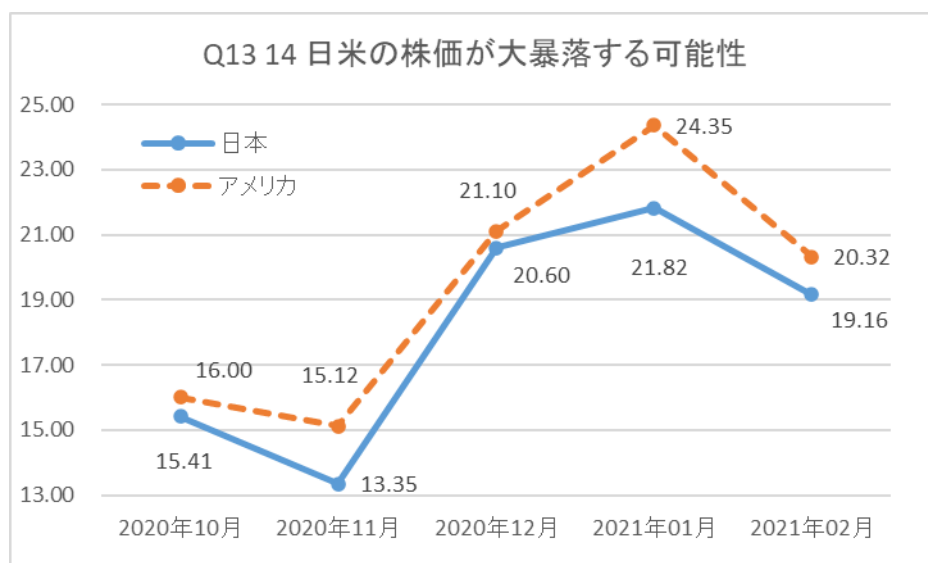


長期の企業収益の成長率の予想については、日本もアメリカも前回の調査から上方修正され、アメリカについては5%台になっていた。

5. 日米株価の安定性

問13. 「今後6ヶ月以内に、日本において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落の起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」

問14. 上記の問をアメリカについて質問。

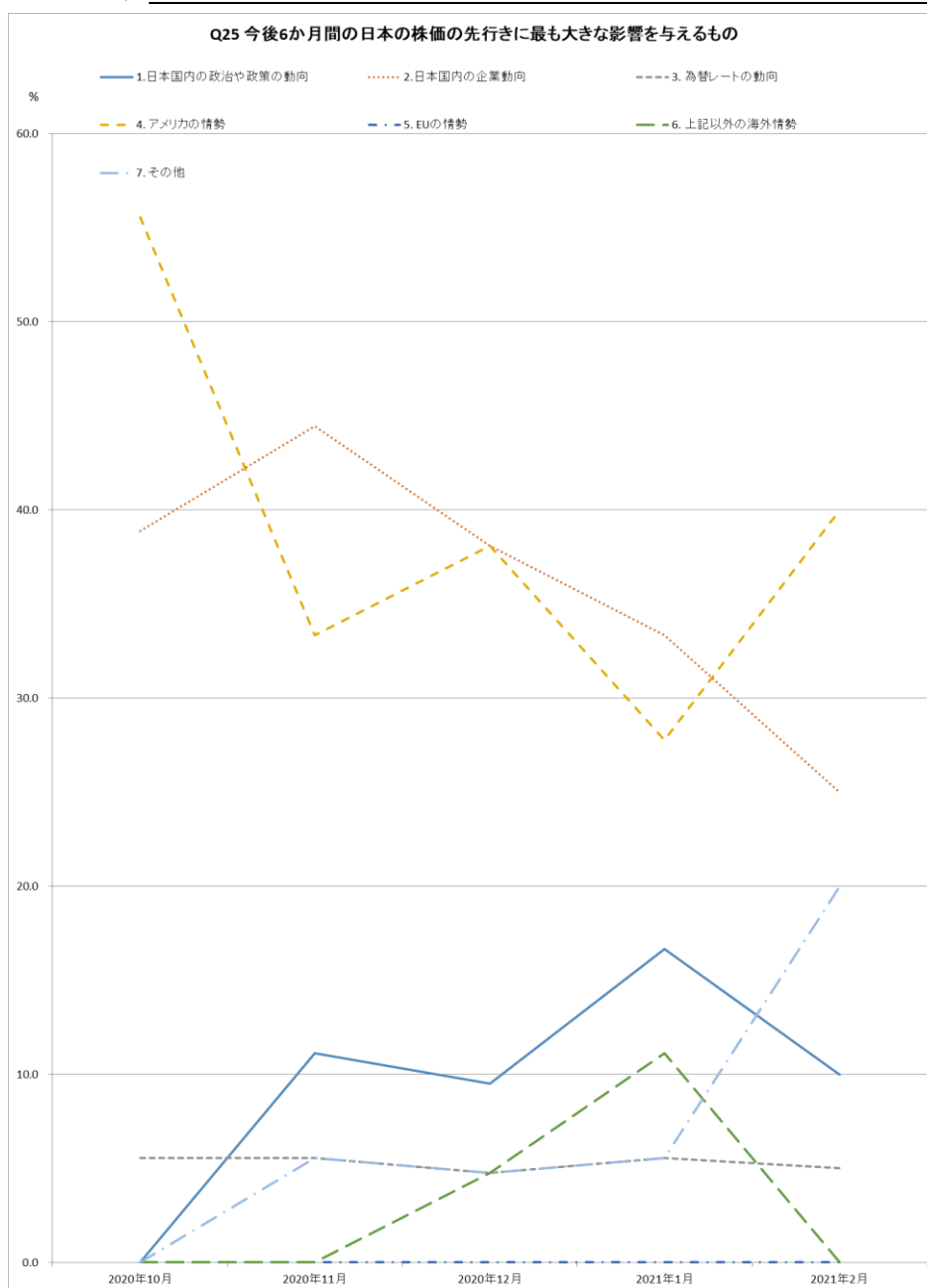


「株価が大暴落する可能性」は、日本もアメリカも前回の調査から低下していた。

臨時（近年追加した）調査項目の集計結果

問25. 「今後6カ月間の日本の株価の先行きに最も大きな影響を与えるのは、次のどれだ
とお考えですか。」

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 日本国内の政治や政策の動向 | 2. 日本国内の企業動向 |
| 3. 為替レートの動向 | 4. アメリカの情勢 |
| 5. EUの情勢 | 6. 上記以外の海外情勢_____ |
| 7. その他_____ | |

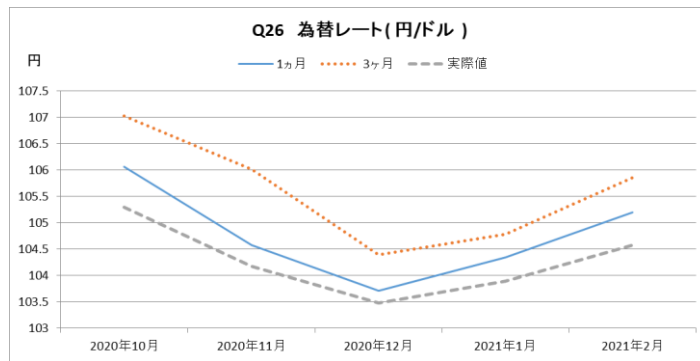


今回の調査においては「4. アメリカの情勢」の回答割合は再び高まっていた。

問26. 「1ヶ月先、3ヶ月先のアメリカドル／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ドル＝ _____ 円

3ヶ月先 1ドル＝ _____ 円

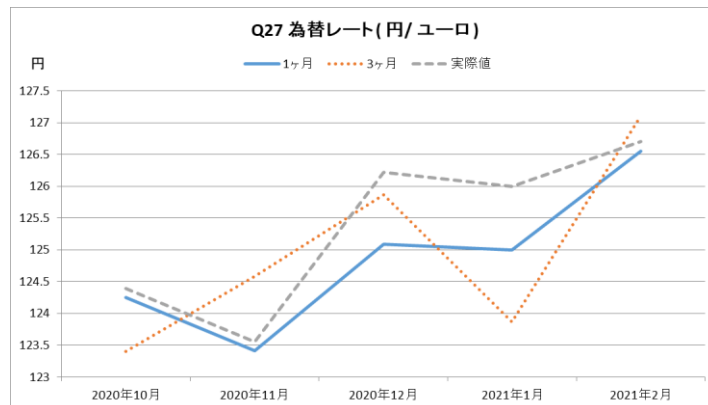


実際の値、1ヶ月先、3ヶ月先の予想値は、いずれも円安方向に修正されていた。

問27. 「1ヶ月先、3ヶ月先の欧州ユーロ／日本円レートはいくらぐらいになると予想されますか。」

1ヶ月先 1ユーロ＝ _____ 円

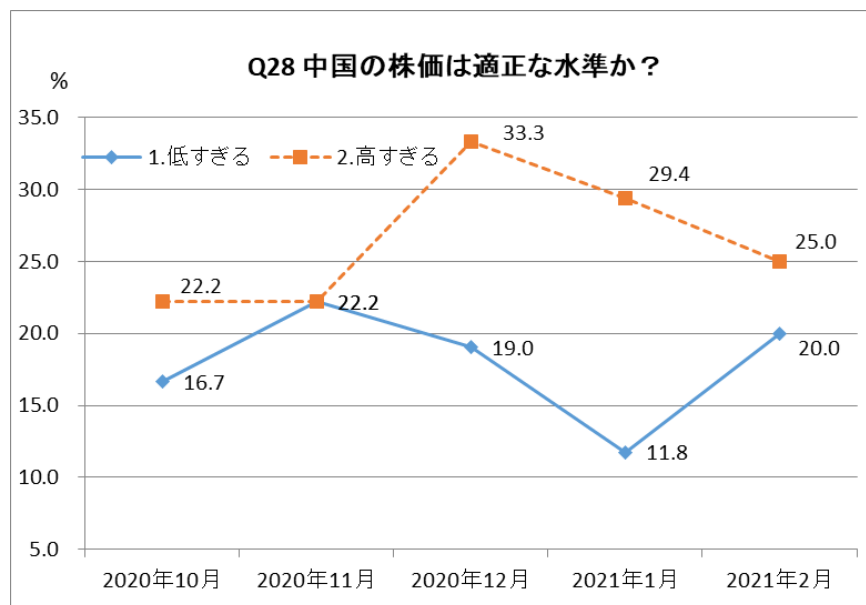
3ヶ月先 1ユーロ＝ _____ 円



今回の調査においては、ユーロ/日本円レートについては、3ヶ月先の予想値が特に円安方向に大きく修正されていた。

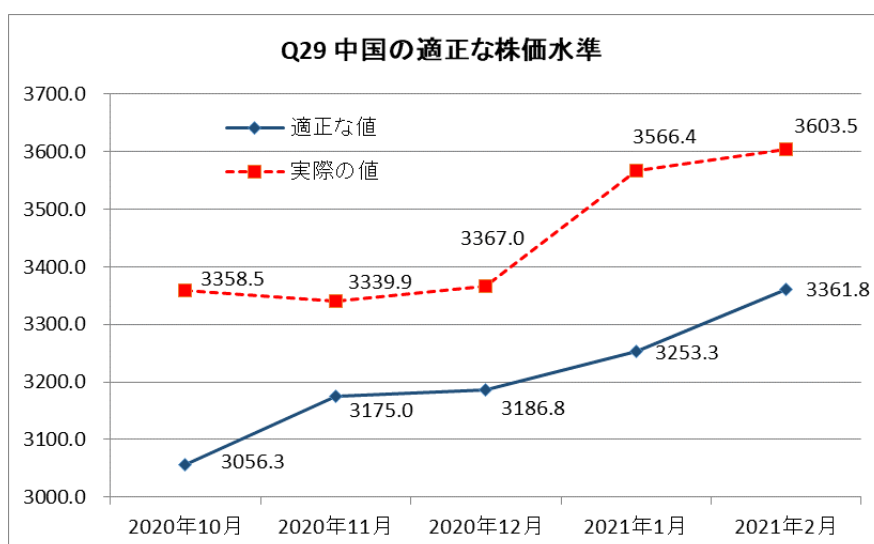
問28. 「中国の株価は企業の実力（ファンダメンタルズ）あるいは合理的な投資価値にくらべて、」

1. 低すぎる 2. 高すぎる 3. ほぼ正しく評価されている 4. わからない



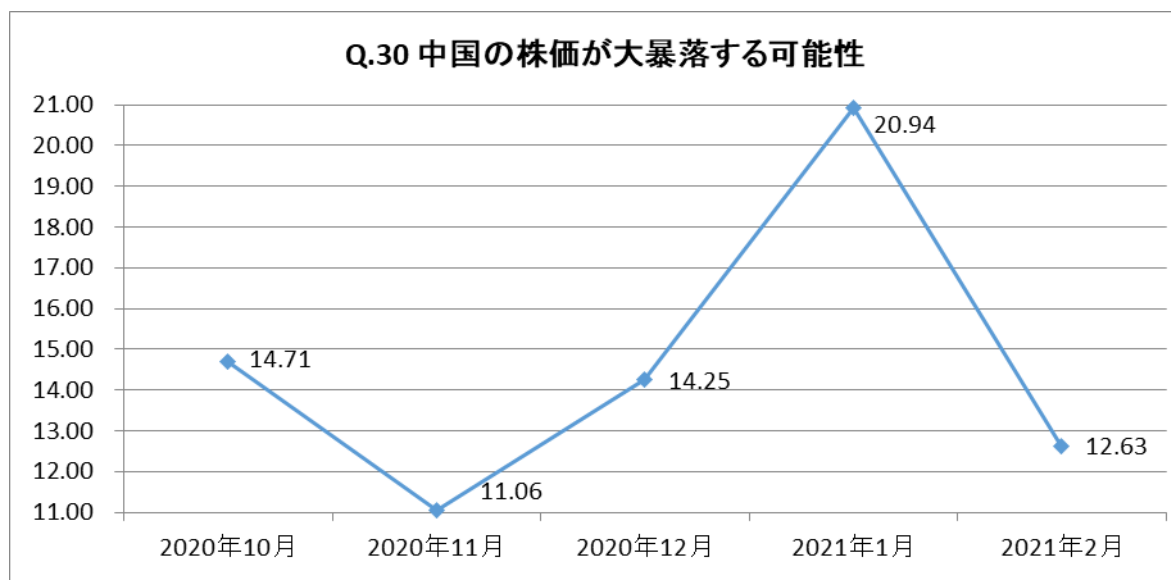
「3. ほぼ正しく評価されている」の回答割合は 40.0%であった。

問29. 「中国の株価（上海総合指数）は企業の実力（ファンダメンタルズ）から見てどのくらいが適正な水準だとお考えですか。」



平均回答日における上海総合株価指数の「適正な値」と「実際の値」は、いずれも前回の調査から上方修正され、特に「実際の値」は3600ポイントを超えていた。なお平均回答日における「実際の値」は Bloomberg の Markets サイトより引用している。

問30. 「今後6ヶ月以内に、中国において、アメリカの1929年の恐慌や1987年のブラックマンデーのような株価の大暴落が（再び）起こる可能性はどのくらいあると思いますか。他国の市場で発生した暴落が伝播する場合も含めます。まったく起こらないと思えば0%、必ず起こると思えば100%というようにお答えください。」



「中国の株価が大暴落する可能性」は大きく低下していた。

自由コメントの紹介（掲載可能として頂いたコメントの要約）

問3の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- 一致指数的な実力ではなく、極めて先行指数的な動きとみている
- 引き続き、コロナ禍で投資家のマーケットに対する警戒感が高止まりする一方、コロナ禍ゆえに政府・民間ともに改革の手綱を締めることはあれ緩めることはない。日米個別企業決算も一巡し企業業績の回復が確認できたことから、上昇基調が続くと考えられる。

問25の質問に対して、以下のコメントをいただいた。

- コロナウイルス変異種並びにワクチン・治療薬動向

以上